

http://www

知求会 EU 支部ニュースレター

Newsreel World

2012 年 4 月 1 日
第 4 号

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp
facebook : Matsubara Mamiko

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

プロフィール: 松原真実子 青森県八戸市出身 国際文化専攻修了
富士通・プラザと民間企業を経てビジネス専門学校・東京情報大学で勤務
3.11 千葉市勤務先大学内で被災。現在イタリアはミラノ近郊レッコ市滞在
修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用』

この号の内容

1 イタリアに工房

日本人制作者が震災
流木でバイオリン

2 EU 支部だより

- ・震災流木の音色 1000 人
引き継ぎ
- ・バイオリン製作者
中沢宗幸さん(71)
- ・最高齢奏者 89 歳
- ・イタリア クレモナ

イタリアに工房 日本人制作者が震災 流木でバイオリン 岩手・陸前高田へ



東日本大震災の津波で流された流木の廃材からバイオリンを作り、世界中のバイオリン奏者 1,000 人が弾き継ぐ活動を企画。初披露は 3 月で、現役最高齢のプロ奏者とされるイスラエル人のイブリー・ギトリスさん (89) が最初の演者になるという。震災後、被災者のために何かしたいと思ってきたバイオリン製作者の中沢さんは「人は時とともに災害を忘れ自然への畏怖も薄らいでしまう」との思いからこのプロジェクトを考案。「生きている人を励まし、亡くなった人の鎮魂のためにコンサートを続け、忘却を少しでも食い止められれば」と願う。「千の音色でつなぐ絆」と命名されたこの企画は、岩手県大船渡市で山積みになっているがれきの中からバイオリン作りに使えそうな流木を選ぶところから始まった。バイオリンの頭部分と渦巻きや側面部分は流木で作り、表板や裏板はバルカン産とする予定だ。プロジェクトには、最高齢のギトリスさんをはじめフランスのジュラル・プーレさん、メキシコ在住の黒沼ユリ子さんからも賛同。このバイオリンを使ったコンサートを世界各地で開く計画だ。(毎日新聞 2012 年 2 月 23 日)

EU支部だより ーあの日から 1 年ー



- ・あの日から 1 年
- ・不安と恐怖
- ・卒業式直前
- ・カウントされない被害

あの大震災から 1 年が経つ。私の故郷、青森県八戸市も地震と津波の被害にあった。震災直後「前向きに生きるしかない」「頑張るしかない」と皆口を揃えて言っていた。そうでも言わなければ、本当に前に進めなくなるような気がしていたからだ。

しかし、最近少し変わってきた。「今でも不安で海岸へ行けない」「怖くて震災の写真や番組をみられない」といった話も出るようになってきたのだ。心が沈んだからではない。やっと「不安」や「恐怖」といった本当の気持ちを表現できるようになってきたのだ。本当の意味で心に余裕が出てきたのだ。と、私は感じた。

さらに、話は続く。あの日、卒業式を間近に控えていた。謝恩会や卒業パーティでホテルやレストランは軒並み予約でいっぱいだった。食材は全て準備万端。しかし、そこへ大地震と津波が来たのだ。当然、予約は全面キャンセル。準備された食材は行き場をなくした。調理するにも電気もガスも水もない。これでは腐らせるだけだ。ならばと八戸の飲食関係者は、食材と携帯ガスコンロを持参。八戸よりもさらに被害の大きかった地へと向かい全て自前で炊き出しを行ったのだ。被害は食材だけではなく、卒業式のために整えられた花や記念品等々、多くの分野で多額の被害が出ていたのだ。

地震で家が壊れた、津波で町が流された。もちろん、甚大な被害だ。しかし一方では報道もされず、県や国からの援助もなく、被害額にも被害数にもカウントされない被害というのをもまた、数多くあるのだ。

あの大震災から 1 年。これまで知られている以上に、さらに、さらに、被害は甚大なのだということに気付かされた 3 月 11 日だった。(松原)

＜イタリア人からのコメント 3 月 11 日＞

◎日本人は全て計画的で我慢強くてすごい。八戸のことは素晴らしい(38 歳女性)

◎津波で家が船のようにになっているのにセメントが落ちないのがすごい(26 歳男性)

◎アメリカでは台風の後、同じ場所に家を建てた。直後、再度台風が来てまた家が壊されてなくなった。日本人は同じことはしないだろう(49 歳男性)